平成 28 年度　ＦＤ活動報告

生命環境科学域（自然科学類を除く）

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

- 複数の講義で独自に授業内容に関する学生へのアンケート調査を実施した。
- 獣医学類では平成 29 年 3 月に実施した獣医学共用試験に向けて vetOSCE 実習を新たに開講したが、より充実した実習にすべく振り返りミーティングを担当教員全員で行った。また実習に協力してもらう「飼い主役」の方々（クライアント）を含めた、クライアント研修も実施した。
- 応用生命科学類では本学外国人招へい教員事業で来日したテキサス A&M 大学教員による英語公開授業（植物系統分類学、植物保護学、地域実践演習）（平成 28 年 11 月 7 日、14 日）を実施するとともに学内向けに動画公開した。
- 応用生命科学類では教員のプレゼンテーション能力向上支援を目指し、外部講師を招聘してのオープンセミナーを 6 回実施した。
- 緑地環境科学類では特に以下の活動に注力した。
  (1)　実習・演習科目に関わる WG を設置し、実習書の作成／改訂や採点評価方法の検討、実習指導に関する留意点などの検討会を開催した。
  (2)　卒論発表会において一部の日本人学生に英語でのプレゼンを指導した。

２　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期			
後期			
年度合計			

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数
2016.4.8	新任教員 FD 研修	FD セミナー	全学で 12 名、生命環境 2 名
2016.7.1	FD ワークショップ「学生の自己学習を促す『教材開発アプリ』の活用術」	FD セミナー	全学で 23 名、生命環境 7 名
2016.11.4	FD セミナー「グループワークを豊かな学習活動とするためにージグソー法の理論的背景とその活用ー」		全学で 34 名、生命環境 5 名
2016.12.21	FD セミナー「専門科目でのディベートの効果的		全学で 12

	な活用」		名、生命環境4名
2016.9.22	医療面接トライアル	ワークショップ	約50名
2016.7.9 & 7.11	第１回クライアント研修	ワークショップ	約10名
2016.10.1	第２回クライアント研修	ワークショップ	約10名
2016.11.14	第３回クライアント研修	ワークショップ	約10名
2016.7.22	Arabidopsis CTD-phosphatases: Reactions and impacts on RNA landscape(小岩尚志博士 Texas A&M University)	オープンセミナー	30名
2016.12.5	Delivering a message: Systemic transport of mRNAs in plants (Dr. Fritz kragler, MPI-Golm, ドイツ)	オープンセミナー	25名
2017.1.17	Exploiting sebacinalean symbioses to enhance plant stress resistance (Dr. Patrick Schafer, University of Warwick, UK)	オープンセミナー	30名
2017.3.2	SCHENGEN mutants define a diffusion barrier surveillance pathway in plants (Dr. Niko Geldner, Lausanne University, スイス)	オープンセミナー	35名
2017.3.13	Expression of foreign gene in plant by using the genome of cucumber green mottle mosaic virus.(Dr. Bikash Mandal, IARI, インド) Differential infectivity behaviour of croton yellow vein mosaic virus and its cognate betasatellite increases the host adaptation flexibility and perpetuation.(Dr. Anirban Roy, IARI, インド)	オープンセミナー	20名
2017.3.23	Linking genotype to phenotype using genetic resources in the tomato Micro-Tom model (Dr. Agustin Zsogon, University of Vicosa, ブラジル)	オープンセミナー	25名

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況			
会議・委員会名	内容	回数	委員数
学域(学部)教育運営委員会	・FD 関連事項を含む教務・カリキュラム活動についての相談と連絡･調整。 ・シラバス充実の向けた連絡･相談。 ・DP や CP の作成・調整。 ・新入生の受け入れについての行事（オリエンテーション等）の相談。 ・不正行為対応についての協議。 ・次年度履修要項および時間割の作成・調整。 ・副専攻についての調整。 ・生命環境科学入門担当者の選定。	5 回	13 名（研究科長、副研究科長、学域長、各学類･課程教員２名、オブザーバ１名）
学域新入生アドバイザー合同説明会	（教育推進課の支援の下､）各学類あるいは課程の H28 年度新入生担当のアドバイザーを対象に、カリキュラムオリエンテーションおよび学類オリエンテーション時の注意事項を説明。	1 回	6 名（応生 4 名、緑地 1 名、獣医 1 名）
獣医学専攻学科（学類）教育検討委員会	獣医学科・獣医学類の学士教育に関する課題の整理と解決を議論	6 回	7 名
医療面接・振り返りミーティング	医療面接の内容を充実するため実施内容を振り返る	5 回	18 名
医療面接・打ち合わせミーティング	医療面接の内容を充実するために事前に内容をシミュレーションし確認	5 回	18 名
応用生命科学専攻教授会	課程配属要件見直しに伴う 1 年生必修科目の開講コマ配置の検討	2 回	16 名
応用生命科学類学生アドバイザー教員の打ち合わせ	・前年度の学生アドバイザーから１年生担当学生アドバイザーへの新入生オリエンテーション時におけるカリキュラム説明と履修申請の指導に関する打ち合わせ。 ・各課程の１年生学生アドバイザー間での指導における情報共有。	１回（メール会議は随時）	8 名（２回生学生アドバイザー4 名と１年生学生アドバイザー 4 名）
2017.2.23 植物バイオサイエンス課程会議	H29 年度課程講義内容の相互確認	1 回	24 名 課程全員

緑地環境科学類実習演習検討WG	・実習書の改正と実習プログラムの見直し。 ・社会要請に鑑みた内容の見直し。 ・実習演習テーマと評価基準の検討および評価における意思統一など。	2回	13名

５　その他取り組みの具体的実施状況

- 独自の授業アンケートを少なくとも以下の授業で実施
  酵素化学(回答数48/49件、回収率98%)、構造生物学(回答数56/60件、回収率93%)、基礎生化学(回答数115/117件、回収率98%)、水理学（53/53件、回収率100%)、水環境管理学（38/38件、回収率100%)、植物形態分類学（55/56件、回収率98%)、計測工学（50/51件、回収率98%)、生産環境システム学（18/18件、回収率100%)、都市気候環境学（37/39件、回収率95%)、生態環境計測学（23/23件、回収率100%)

平成 28 年度　ＦＤ活動報告

生命環境科学研究科

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

- 大学院教育運営委員会が主体に、応用生命科学専攻内の FD 活動を実施した。
- 各専攻で教員のプレゼンテーション能力向上支援を目指し、外部講師を招聘したセミナーを開催した。
- 緑地環境科学専攻では、オリエンテーションの内容、カリキュラムの見直し、修士論文、博士論文の発表会の方法について検討した。
- 緑地環境科学類では修論の中間発表のポスター作成を（一部はプレゼンも）、英語で行った。

２　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期			
後期			
年度合計			

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数
2016.4.8	新任教員 FD 研修	FD セミナー	全学で 12 名、生命環境 2 名
2016.7.1	FD ワークショップ「学生の自己学習を促す『教材開発アプリ』の活用術」	FD セミナー	全学で 23 名、生命環境 7 名
2016.11.4	FD セミナー「グループワークを豊かな学習活動とするためにージグソー法の理論的背景とその活用ー」	FD セミナー	全学で 34 名、生命環境 5 名
2016.12.21	FD セミナー「専門科目でのディベートの効果的な活用」	FD セミナー	全学で 12 名、生命環境 4 名
2016.5.18	Siderophore-mediated iron acquisition in *Campylobacter*	国際オープンセミナー	20 名
2016.5.20	Cytochrome P450s: Roles in Mammalian Physiology and Toxicology	国際オープンセミナー	32 名
2016.6.1	スリランカ・ペラデニア大学の獣医学教育・研究環境　象の疾病～寄生虫病を中心に～	サイエンスカフェ	26 名

2016.6.2	Research on vector and vector borne infectious diseases	国際オープンセミナー	29 名
2016.6.13	インフルエンザウイルスとその活性化酵素	オープンセミナー	18 名
2016.7.6	腸から眺める健康と疾患	オープンセミナー	36 名
2016.7.22	細菌由来 ADP リボシル化毒素の作用機構と基質特異性	オープンセミナー	27 名
2016.7.26	Macro and micro photography for veterinary purposes	ミニセミナー	35 名
2016.11.4	Significant Roles of Galectin-3 in Kidney Fibrosis, and Important Animal Infectious and Exotic Diseases in Indonesia	国際オープンセミナー	23 名
2016.11.9	An update about antibiotic resistance in bacteria: why we are losing?	国際オープンセミナー	21 名
2017.1.24	カンピロバクターの細胞壁の完全性と腸管内定着性	オープンセミナー	25 名
2017.2.6	Small RNAs: Important regulators of gene expression in embryogenesis, biology and disease	国際オープンセミナー	32 名
2017.2.17	種豚の開発・供給と新たな用途のブタの開発	オープンセミナー	19 名
2016.7.22	Arabidopsis CTD-phosphatases: Reactions and impacts on RNA landscape(小岩尚志博士 Texas A&M University)	オープンセミナー	30 名
2016.12.5	Delivering a message: Systemic transport of mRNAs in plants (Dr. Fritz kragler, MPI-Golm, ドイツ)	オープンセミナー	25 名
2017.1.17	Exploiting sebacinalean symbioses to enhance plant stress resistance (Dr. Patrick Schafer, University of Warwick, UK)	オープンセミナー	30 名
2017.3.2	SCHENGEN mutants define a diffusion barrier surveillance pathway in plants (Dr. Niko Geldner, Lausanne University, スイス)	オープンセミナー	35 名
2017.3.13	Expression of foreign gene in plant by using	オープンセ	20 名

	the genome of cucumber green mottle mosaic virus.(Dr. Bikash Mandal, IARI, インド) Differential infectivity behaviour of croton yellow vein mosaic virus and its cognate betasatellite increases the host adaptation flexibility and perpetuation.(Dr. Anirban Roy, IARI, インド)	ミナー	
2017.3.23	Linking genotype to phenotype using genetic resources in the tomato Micro-Tom model (Dr. Agustin Zsogon, University of Vicosa, ブラジル)	オープンセミナー	25 名
2016.5.6	行政との情報交換会	セミナー	4 名
2017.1.31	行政との情報交換会	セミナー	10 名
2017.2.2	行政との情報交換会	セミナー	20 名
2017.2.13	行政との情報交換会	セミナー	12 名
2017.3.13	企業との情報交換会	セミナー	15 名

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数
研究科教育運営委員会	・FD 関連事項を含む教務・カリキュラム活動についての相談と連絡･調整。 ・学位審査体制等についての協議シラバス充実の向けた連絡･相談。 ・DP や CP の作成・調整。 ・新入生の受け入れについての行事（オリエンテーション等）の相談。 ・研究科 HP 英語版のあり方について協議・更新。 ・次年度履修要項及び時間割の作成と調整。	7 回	10 名（研究科長、副研究科長、３専攻（7 名）、オブザーバー1 名
応用生命科学専攻内教務委員会	専攻ポリシーの点検、検討	１回	３名
応用生命科学専攻内教務委員会	シラバスの点検、検討	１回	３名
応用生命科学専攻内教務委員会	教職課程の点検、検討	１回	３名

応用生命科学専攻内教務委員会	専攻内のFD活動を企画、実施	６回	３名
緑地科学専攻内教務会議	オリエンテーションの内容、カリキュラム見直しの検討	５回	２名

５　その他取り組みの具体的実施状況

FD 活動 29 年度計画
生命環境科学域（自然科学類を除く）・生命環境科学部・生命環境科学研究科

授業改善に活用するため、以下の項目を実施する予定である。

⑴　各専攻・各学類（または各課程）における FD 関連事項に関して協議する。

⑵　学域（学部）教育運営員会および研究科教育運営委員会において FD 関連事項に関して協議する。

⑶　カリキュラムの改善（新設科目の検討や現行科目の見直しなど）を検討する。

⑷　FD に関する講演会・セミナー（教員のプレゼンテーション能力を改善するとともに、研究分野の最新の話題を学生等に提供するためのセミナー等も含める）を開催するとともに、参加を推進する。

⑸　研究公正に関する教育を充実させる。

⑹　ピア授業参観への参加を推進する。

⑺　招聘する海外等からの教員や visiting professor による講演を積極的に実施する。

⑻　旧学生アドバイザーと新学生アドバイザーの間で情報交換する。

⑼　講義科目において独自の授業アンケートを実施する。

（以上）